



愛知の花きを支える栽培技術 ーバラのロックウール栽培・ シクラメンの底面給水栽培ー



（園芸研究所、花き研究所、山間農業研究所開発）

背景

従来、バラは地面に植えて栽培してきましたが、植え替えに多くの労力が必要でした。1985年頃断熱材として使われているロックウールを培地とした栽培法が導入されましたが、栽培条件は手探りの状態でした。

また、シクラメンは灌水に多くの労力を必要で、省力化が強く要望されていました。

成果の内容

試験場では、ロックウールを用いてバラ栽培を行うため、安価な肥料を用いた新しい「バラ愛知園研処方」の開発を始めとして、革新的な栽培技術を開発し、土での栽培より多くの切り花を生産できるようになりました。

また、シクラメン栽培では、C型鋼やプールベンチを使い鉢の底面から水を与える「底面給水栽培法」を確立し、灌水作業を劇的に省力化しました。

愛知県農業への貢献

バラのロックウール栽培やシクラメンの底面給水技術により、従来より省力で多くの生産が可能となり、またたく間に県内の花き産地に広がりました。これらの技術は、愛知産のバラを日本一に導くとともに、高品質なシクラメンの生産に大きく貢献しました。

（園芸研究部、山間農業研究所）